

平成21年度 病害虫発生予察情報

発生予報第5号（7月前半）

平成21年6月29日
島根県

予報の概要

| 区分 | 農作物名 | 病害虫名 | 予想発生量 |
|---------|-----------|----------|-----------|
| 普通作物 | イネ | 葉いもち | やや少ない |
| | | 穂いもち | やや少ない |
| | | 紋枯病 | 少ない |
| | | 白葉枯病 | 平年並～やや多い |
| | | 黄化萎縮病 | 平年並～やや多い |
| | | 縞葉枯病 | 多い |
| | | ヒメトビウンカ | 多い |
| | | ニカメイチュウ | 少ない～やや少ない |
| | | ツマグロヨコバイ | 平年並 |
| | | セジロウンカ | 平年並 |
| | | トビイロウンカ | 平年並 |
| | | コブノメイガ | 平年並 |
| | | 斑点米カメムシ類 | 平年並～やや多い |
| | | 果樹 | ナシ |
| 黒星病 | やや多い | | |
| シンクイムシ類 | やや多い | | |
| ハダニ類 | やや少ない | | |
| アブラムシ類 | やや少ない | | |
| カキ | うどんこ病 | | 平年並 |
| | チャノキアザミウマ | | やや少ない |
| | 果樹全般 | | カメムシ類 |

中国地方1か月予報（6月27日～7月26日・広島地方气象台6月26日発表）

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

| | | | |
|------|-----|-----|-----|
| 気温 | 20% | 50% | 30% |
| 降水量 | 30% | 40% | 30% |
| 日照時間 | 30% | 40% | 30% |

低い（少ない）
 平年並
 高い（多い）

A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

やや少ない

予報の根拠

① 6月25日現在、巡回調査地点における発病株率は0%（平年2.3%）と少ない。

② 感染好適日は、6月第4半旬以降29日まで、のべ3地点出現しており、潜伏感染が見込まれる（ホームページ葉いもち情報参照）。

③ 7月の気象は本病の発生を助長する要因とはならない。

(2) 穂いもち

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

やや少ない

予報の根拠

① 伝染源となる葉いもちの発生量は平年に比べてやや少ないと予想される。

- ② 7月後半の気象は、本病の発生を助長する要因とはならない。
- (3) 紋枯病
 予報内容
 発生地方 県下全域
 発生量 少ない
 予報の根拠
 ① 6月25日現在、巡回調査地点における発生圃場率は0%（平年5.7%）、発病株率は0%（平年0.4%）と少ない。
 ② 7月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。
- (4) 白葉枯病
 予報内容
 発生地方 県下常習発生地帯
 発生量 平年並～やや多い
 予報の根拠
 ① 6月25日現在、発生は確認されていない。
 ② 6月第5半旬には県内各地で圃場が浸冠水した。
 ③ 7月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (5) 黄化萎縮病
 予報内容
 発生地方 県下常習発生地帯
 発生量 平年並～やや多い
 予報の根拠
 ① 前年の発生量から、菌密度は低いと考えられる。
 ② 6月第5半旬には県内各地で圃場が浸冠水した。
 ③ 7月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (6) 縞葉枯病
 予報内容
 発生地方 県下常習発生地帯
 発生量 多い
 予報の根拠
 ① 県内各地で発生が認められ、発病株率の高い圃場も散見される。
 ② 媒介虫であるヒメトビウンカの発生量は平年に比べて多いと予想される。
 ③ 6月中旬に捕獲されたヒメトビウンカ成虫の保毒虫率は8.8%と高い。
 （6月25日発表臨時情報第1号参照）
- (7) ヒメトビウンカ
 予報内容
 発生地方 県下全域
 発生量 多い
 予報の根拠
 ① 6月下旬の巡回調査では、捕獲数は1.8頭（平年0.1頭/50株）、発生圃場率は49.0%（平年7.1%）で発生量は平年に比べて多い。
 ② 7月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。
- (8) ニカメイチュウ（第1世代）
 予報内容
 発生地方 県下全域
 発生量 少ない～やや少ない
 予報の根拠
 ① 予察灯、フェロモントラップにおける誘殺数は平年に比べて少ない。
 ② 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は2.0%（平年5.7%）、被害株率は0.1%（平年0.3%）で発生量は平年に比べてやや少ない。
 ③ 7月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。
- (9) ツマグロヨコバイ
 予報内容
 発生地方 県下全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ① 6月下旬の巡回調査では、捕獲数は4.8頭（平年3.1頭/50株）、発生圃場率は49.0%（平年38.3%）で発生量は平年並みである。
 ② 予察灯での誘殺数は平年並みである。
 ③ 7月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。
- (10) セジロウンカ
 予報内容
 発生地方 県下全域
 発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は、出雲市、浜田市で6月23日に観察された。6月末までの誘殺数はほぼ平年並みである。
- ② 6月下旬の巡回調査では、成虫が3.7頭（平年5.3頭/50株）、圃場率は72.5%（平年59.8%）で発生量はほぼ平年並みである。
- ③ 7月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。（技術資料第1号を参照）

(11) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯、粘着誘殺灯への飛来は、6月第5半旬までに認められない。
- ② 6月下旬の巡回調査では発生を認めていない。

(12) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯、粘着誘殺灯への飛来は、6月第5半旬までに認められない。
- ② 6月下旬の巡回調査では発生を認めていない。

(13) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の圃場周辺雑草地でのすくい取り調査では、カメムシ類合計で0.9頭/10回振り、調査地点の25%（去年同期：1.4頭/10回振り・22%）で発生量は平年並みである。主要種はホソハリカメムシ、アカスジカスミカメである。
- ② 7月の気象は本種の発生にやや助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県下ナシ（二十世紀）栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月25日の巡回調査では、発病葉率は7.3%（平年7.5%）であり、発生量は平年並みである。
- ② 7月の気象は本病の発生を助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 6月25日の巡回調査では、発生量はやや多い。一部で多発園も認められる。
- ② 7月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯
発生時期 やや早い
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① ナシヒメシンクイ第1世代雄成虫の誘殺盛期は平年に比べやや早く、総誘殺数はやや多い。
- ② 7月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。

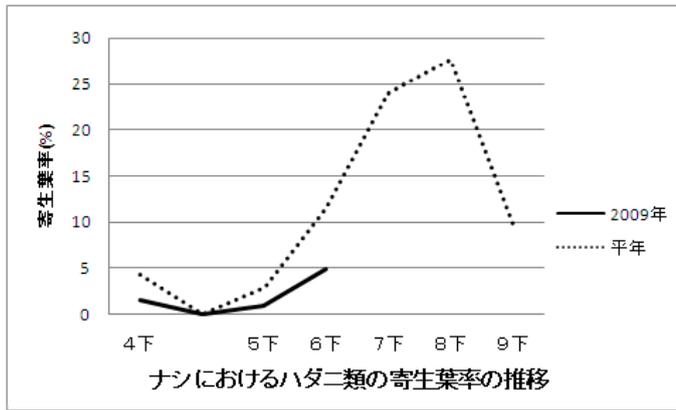
(4) ハダニ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 6月巡回調査では寄生葉率5.0%（平年10.2%）でやや少ない。
- ② 7月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。



(5) アブラムシ類

予報内容

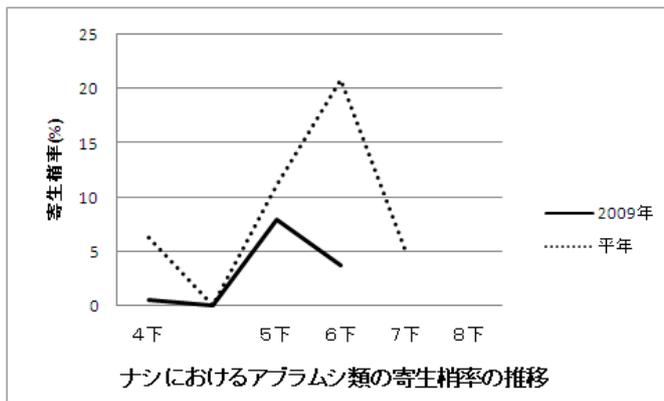
発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 6月巡回調査では寄生率3.7% (平年20.0%) でやや少ない。

② 7月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県下カキ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 6月25日の巡回調査では、発病率は0.63% (平年0.36%) であり、発生量は平年並みである。

② 7月の気象は本病の発生を助長する要因とはならない。

(2) チャノキイロアザミウマ

予報内容

発生地方 県下カキ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 露地圃場に設置した粘着トラップでの誘殺数は平年に比べてやや少ない。

② 7月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

3) 果樹全般 (カキ、ブドウ、ナシ等)

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県下果樹栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 露地圃場に設置した予察灯での6月5半旬までの誘殺数は68頭 (平年150.6頭) で平年並みである。

② 7月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

○病害虫防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

- ①葉いもち情報
- ②臨時情報イネ縞葉枯れ病
- ③ヒメトビウンカの発生経過と防除対策
- ④技術資料第1号セジロウンカの初飛来を確認

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/shimane/>